

しました。

筆神社(昭和41年9月再建)と針供養の祠は白山神社に向かって右側のところにひっそりと建立されています。ご存知ない人が増えてきていると思います。

筆神社(梅鉢の紋のあるほこら)使い古した筆を納めて学問の上達を祈願する神社で毎年左義長に集まった古筆を焼却する慣例となっていました。

針供養は日常で使われた針を納め、毎年2月8日あるいは12月8日に供養したといわれてきました。

橋本 : 白山神社の過去帳はありましたか。

橋谷 : あります。氏子総代が持ち回りとするものです。今の氏子総代が所持されていると思います。

橋本 : 白山神社は今の場所にこられる前は、どこにありましたか。

橋谷 : 最初は、元の丹生警察署の裏手にありました。(今の朝日楼さんの道を隔てた所)という方がわかりやすいでしょうか。

橋本 : 神社の改修は2度あったと聞いていますが。

橋谷 : それは過去帳を見てください。

橋本 : 織田の剣神社さんとのことについてお話をください。

橋谷 : 神事は30年ごとに織田の剣神社からお神輿がお渡りされていたそうです。経緯はわかりません。現在はどうされているのかもわかりません。

橋本 : 白山神社に幸若舞に関する物がありませんね。
明治の初めに名古屋の連隊に入る際に幸若一族の榎本氏が「故郷のことを忘れない」という思いから絵馬を掲げておられます。

橋谷 : わかりませんね。静かな踊りだったと思いますが、一度途切れたと思います。
今は、若い方がいろいろお骨折りいただいて幸若舞を復活させていただいています。
ありがたいことです。

橋本 : 幸若舞は西田中の民衆に見せるものではない。将軍に見せるものだと。だから、残らなかったのだと思います。

橋谷 : 継続して大事にしてほしいことは、白山神社・地蔵講・幸若舞ですね。
白山神社の夏まつりには一本足の下駄を履いて盆踊りをしながら各地区を歩きました。
昭和20年頃くらいから秋祭りには区の協力を得て山車を出したり仮装行列も行いました。
その頃、朝日町が町の活性化のために祭りにお金を出してくれるようになり、ご奉仕もいただき、盛大になってきました。
青年団主催で歌舞伎を奉納したこともあります。
十数年は続いたでしょうか？糸生地区の松村自転車屋さんが先生でした。